

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	明木 スーザン マリー
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>Visual Language Retention</p> <p>視覚言語とその保持率分析</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 スケアー、ピーター</p> <p>審査委員 教授 安仁屋 宗正</p> <p>審査委員 教授 山田 純</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>今日、マルチメディアを活用して情報を提示する手法は、教育・研究面・ビジネス面で見られる。マルチメディアには、コンピュータ、図表を含む教材、配布資料、ビデオなどの複合的なメディア情報源があり、認知活動が関係している。</p> <p>明木氏の研究は、的確に定義され、明快で、記憶が容易なプレゼンテーションソフトウェア使用に関して視覚言語文法を確立することを主眼としている。具体的には、(1) 背景色、(2) 使用フォント、(3) テキスト密度の3点に焦点を絞り各々に関して独立した章を立てて論じている。日本・米国の約1000人の大学生を対象に、プレゼンテーションソフトを使用し上記3つの視点から実験を行って結果を解析したものである。日本と米国で実験を行った理由は、両国における文化的違いの影響を確認するためである。実験の結果、特定の背景色や使用フォントにおいて両国の被験者に相違が見られ、以下の3点が顕著であることを明らかにした。</p> <p>(1) 日本のような単一文化社会においては、記憶に背景色の影響が見られる。日本の被験者は、青の背景色とフォントのコントラストを好む傾向があるが、米国の被験者にはそれが見られなかった。</p> <p>(2) 使用フォントも記憶に影響を及ぼす。米国の被験者においては、特定のフォント（コミックサンズ）が情報記憶の向上や低下に大きな影響を及ぼし、他方日本の被験者においてはそれが見られず統計的な有意差は見られなかった。</p> <p>(3) テキスト密度は、日本・米国の被験者において大きな影響を及ぼすことが明らかとなった。効果的なテキスト密度として、1スライドにつき12のチオヤンク（句や文）が最適であると結論づけている。</p> <p>本論文は、マルチメディア使用における背景色、使用フォント、テキスト密度の視点から視覚言語文法を定義し、情報記憶に関する分析を提示しており教育・研究・ビジネス面での応用が可能であり期待できる。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			

備考 要旨は、1,500字以内とする。